

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



取材したインターン生、元インターン生それぞれがコロナ影響前に経験した活動。若いエネルギー、活動再開を願って。

特集 Z世代と共に考える!NGOの未来を見据えて

コロナウイルスが世界で拡大して1年以上経ちますが、今だ収束の見通しが見つからない現状。NGOの活動にも大きな影響を及ぼしました。イベントをオンラインに切り替えるなど、各団体で試行錯誤をしてきました。時代も少しずつ変化しています。これからの時代、中心となるのは生まれた時からデジタルの環境に生きる若い世代ではないでしょうか。コロナ禍でデジタルネイティブに生きるZ世代(1990年代後半頃から2012年頃に生まれた世代を指す)が思う、現在と未来。NGOの未来を見据え、語ってもらいました。


Z世代と共に考える！NGOの未来を見据えて


20代若手インターン生と座談会


2020年12月、NGOセンターが企画運営を行った国際協力カレッジは、初のオンライン開催となりました。活動紹介に参加した各団体は、狭い画面の中で懸命の説明を繰り返しました。そこで活躍した若手インターン生たち。元インターン生にも集まってもらい、2021年2月に座談会を開催しました。さて、どんな言葉が出てくるのでしょうか？




国際協力カレッジではお疲れさまでした。準備の過程、苦労した点などあれば聞かせてください。


 短くまとめるのが大変でした。でも、実際本番になると早口になってしまい、逆に時間が余ってしまいました。(笑)
〈小池〉

 参加者がどんなことを知りたいか、過去にどんな参加者がいたのかをスタッフに聞いて、考え、いろいろな人に伝えられるように工夫しました。
〈長屋〉


 コロナの影響でアジアの研修生を招いて開催する団体のメイン活動を経験できなかったため、そこを説明する難しさがありました。
〈多井〉


他のNGOの発表を聞いてどう思いましたか？


 他団体は職員や社会人などが発表しているところもあって、情報の重みが違っていました。私の経験わずか1年足らず。これから中身の濃いものにしていきたいと思いました。

 アプローチの仕方が違うだけで思いは一緒。共感する部分がありました。何かしたいの“何”が違うだけで、私自身も刺激になりました。

なぜそのNGOを選びましたか？きっかけは何だったのでしょうか？


 大学に入って海外でボランティアを経験しました。「ホープ」に参加したのは、すでに始めていた友達の紹介です！


 社会にとってちょっといいことをしたいと思い、自分でも関われる所はどこだろうと考えました。NGOという視点から社会の本来の解決アプローチ方法を知りたいと思い、Nたま(p.6参照)に参加しました。海外旅行で見たストリートチルドレン。彼らに対してできることはないかなと思いました。「ハンガーゼロ」はいろいろな事業をやっているし、現地の人に寄り添ってコミュニティ開発をしている点がよかったので。


 SOMPO環境財団のCSOラーニング制度*から、インターンに応募しました。学部時代の東南アジア、ボランティア経験や専攻している環境、保健というつながりからAHIを選びました。

*環境問題に取り組むNPO・NGOなどで、大学生・大学院生がインターンシップをする制度

NGOに関わってもどかしいと思ったこと、ヤダと思ったことはありますか？

 国際系の学部友達はいいけど、興味をもともと持っていない人にどう広めていくかが難しいと思います。そもそも興味をもってもらえないです。

 活動地域になかなか行けないのがもどかしいです。特にアフリカは距離的にも安全面でも難しく、自分のやっていることがどこに繋がっていくのか、現地の実地の声を直接聞きたいのですが…

 イベント運営では毎週3時間以上費やして、意見がまとまらない現状があり、また、イベント自体をオフラインからオンラインに切りかえるのにもかなりの時間を費やしていました。

メンバー紹介

ハンガーゼロ
(一般財団法人
日本国際飢餓対策機構)

インターン
ながや りき
長屋 璃沙さん



認定NPO法人
ホープ・インターナショナル
開発機構

インターン
こいけ ふみな
小池 良奈さん



公益財団法人
アジア保健研修所
(AHI)

昨年インターン
たい しおり
多井 紫織さん



特定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

元インターン
ひろい しゅうへい
廣井 修平さん



〈廣井〉

今の話に関してだと、社会人として働き出してみると意思決定の早さ、上司から言われたことをすぐやるのが求められます。それがない分、みんなで合意形成して進めていく良い点もあるけど時間もかかりますね。いろいろな意見が出てくるので集約するのに苦労する部分もあります。良さでもあるけど、合意形成をしっかりとやっていこうとすると大変です。

SNSなどのデジタルデバイスとアクセスしている時間は、1日にどのくらいありますか？



30分くらい?日によりけりです。ミーティングなどLINEでやり取りするときは3時間くらい使うこともあります。



料理するとき、入浴するときなど、結構YouTubeを見ながら過ごします。授業の合間も。トータル4~5時間は見ているかなあ。休日もずっと見ちゃいます。



仕事以外だと1時間くらい。



通勤電車の中、昼食後、帰宅してから。トータル3~4時間くらいかな。

では情報収集はどこから？



Instagramでフォローしている団体の情報を見て収集します。ニュースはテレビを見ます。結構つけてますよ。ネットニュースを読むのは苦手なので。



Googleで検索、追求。LINEニュースの通知で、興味があればタップして見ます。今、就活中なので、テレビでニュースを見るようにしています。news zeroとか。でも、テレビをつけない日もあります。



フェイスブック、ツイッターが多いです。ニュースに関しては、スマホのニュースアプリで。現在公務員として働いているのですが、報道の仕方によって、実際に自分が見ている現場、実態とは違う印象を

与えているように思います。一般の人が見ると、この報道をもとに判断されるんだなと感じます。

得た情報から発信をするときは何を使いますか？



だいたいInstagramかなと思います。私の価値観ですけど、Instagramは自慢する場所だと思っているので、自分のアカウントでNGOの情報の発信はしないですね。



自分の考え方がどうやったらうまく伝わるかなって考えたときになかなか文字に起こすのが苦手で、直接周りの家族や友達などの身近な人に話すことが多いです。



見てほしい情報は引用リツイートで発信します。ツイッターの方がインスタよりも使っている層が広く人数も多い。マーケティングの人とかも使うってよく聞きますし、ツイッターの影響力がすごいなあって思っています。



ツイッターは見ているだけなので使うのはフェイスブックだけです。感想は個々人で違うので、自分の思ったことを書いても別にいいんですけど、基本投稿に「きれい」とか「おいしい」とかの感想は書かないようにしています。

発信の方法や、お勧めのアプリなどありますか？



ホープでInstagramを運営させてもらっているんですけど、結構模索中です。Instagramって興味を持っている人しかフォローしないし、検索もかけないからなかなか興味のない方に見てもらうのが難しくって。一番いいね数が多かったのが映画と絡めてホープの事業を紹介した投稿です。関係ないことと絡めてハッシュタグとかつけて発信するのがいいと思うんですけど、大きい数字にはならないですね。



NGOに関する情報発信は自分のアカウントでやっています。ボランティアつながりの友達には「こんな活動もあるんだ」と興味を持ってもらえたらいいし、興味がない子には「私もがんばろ」って思ってくれればいいと思っています。



今東京に住んでいるけど、今日の座談会にもオンラインだから参加できているので、今はオフラインで仕事しているので不安なこともあるけれど、これからどんどん慣れてくるのかなとも思います。

みなさんが描くNGOの未来像は？



デジタルになることで広めやすさはあると思う。愛知から、北海道にいる人や国境を越えてつながることもできたらいいですね。



情報にアクセスしやすいからこそ興味のある情報しかとらないという面もあるのかなと私は思っています。NGO・NPOを特別なことじゃなくて、いつでもみんなが気軽に関われるようになってほしいなと思っています。



かなりいろんなことが気軽にできる。一度に情報を得ることができる。でも、貧しいところの生活も画面で見ているので、他人事を感じてしまうのはもったいない。世界が身近になっているのと同様に私たちの心の距離も近くなっていくというのが理想ですね。

コロナの影響がなくなり今まで通りの生活に戻ったら、やってみたいことはありますか？



今まで通りの生活。毎日会社に出社して、インターンに行って、自分の思っていることや考えていることを話す。休日は友達と会ってリフレッシュする。そういう日常を楽しみたいなって思います。



自分の目で見たいのでいろんなところに赴きたい。AHIにもあまり行けてなかったので研修生ともぜひ会いたいですね。

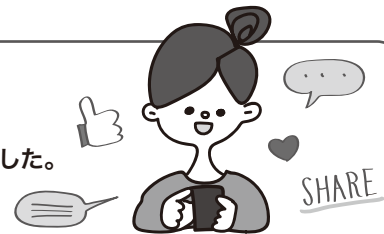


久しく東海地方に帰っていないので、NGOセンターに行って雰囲気を感じたいなと思います。

(担当:桜井・高橋)

さんぐりあ編集委員:りかこのSNSの使い方

対談ではたくさんのSNSアプリが出てきたので、20代個人の使い方をまとめてみました。



フェイスブック

ボランティアなどのつながりの友達が多い。頻繁に会う人ばかりではないので、近況報告。社会問題に関心のある友達も多いので情報共有、思ったことを共有。

ツイッター

趣味(スポーツ・お笑い)の情報収集や交流用。顔を知らない人が多い。本名は公表せず、リアルタイムの居場所は載せないようにしている。基本的に趣味のことしか載せないが、地震などの緊急の際に役に立ちそうな情報や、差別・いじめ・貧困・フェアトレードなど、たまに社会問題にも触れることによって、少しでも関心を持ってもらえればと思っている。

インスタグラム

主にフェアトレード関係の販促POPを載せている。タグをつけているので、フェアトレードに関心のある人やPOPに関心がある顔を知らない人もフォロワーにいる。POPと関係ないことは、通常投稿とは別枠の「ストーリーズ(24時間で消えるもの)」に載せることが多い。

ノート(note)

趣味をきっかけにツイッターと連動してスマホでたまに読んでいる。課金して読む記事もある。メールアドレスとパスワードの登録で始めることができる。以前、フェアトレード、地産地消に関する気になったことやピースボートに乗って感じたことをまとめたブログを書いていたが、次から流行や使いやすさを理由にノートにしようかと思う。

アムネスティ・インターナショナル名古屋多文化グループは2019年9月に結成されました。結成したきっかけは、東海地方に人権擁護活動に興味がある外国人は少なからず存在するものの、日本語が操れず言葉の壁が乗り越えられないので、活動しづらいということです。

何故、多文化グループと呼ぶかという、在日外国人においては国籍、信条、宗教、性的指向、年齢層、性別にわたり、多様性に富んでいます。欧米人でない人も歓迎しますので、「多文化グループ」というわけです。

2019年の初ミーティングから、我々のグループは多岐にわたる活動又はキャンペーンを行って来ました。2020年5月17日、気候危機が人権に及ぼす影響について考え、話し合い、経験や見解を共有するイベント、国際交流カフェ「気候変動は人権にどのように影響を及ぼすのか」に、国内外から27人がオンラインで参加しました。イベントには気候変動と人権の分野で経験のある2人のパネリストが発表しました。名古屋大学大学院・環境学研究科・地球環境科学の高野雅夫教授と、気候変動と人権の活動家でフィリピン初の気候変動ストライキの主催者であるマリネル・スモーク・ウバルドさん

エッセイ
NGOの散歩道
第33回

言葉の壁と国境を越え、
全力で人権を広げましょう

です。2020年5月から我々は「連帯感」と呼ぶポッドキャストも収録しています。このポッドキャストの目的は日本国内であまり注意を払われていない話題を集中的に取り上げて啓発することです。今まで、人権と気候変動の関連性とBlack Lives Matter(黒人の命も重要)の団体についてのエピソードを公開してきました。
<https://www.buzzsprout.com/1034122>で聴くことができます。

原則として、アムネスティ名古屋多文化グループは毎月の第4週末に例会を行います。参加に興味がある方は下記のメールアドレスにご連絡頂きますようお願い致します。尚、SNSもフォローしていただければ嬉しく思いますので、下記のURLをご閲覧下さい。

メールアドレス: amnesty.nagoyamcg@gmail.com
URL: Facebook: <https://www.facebook.com/aimcgnagoya>
Twitter: @aimcg_nagoya
Instagram: @aimcg_nagoya

アムネスティ名古屋多文化グループ運営担当
Glen Cowan グレン・カオワン
オーストラリア、メルボルン市出身。

さんぐりあ編集委員がおすすめるモノ・ヒト・メディア情報

NANGOC RECOMMENDS

なんごく

りこめんず

vol.71

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめる」情報をおよせください。
e-mail: info@nangoc.org
※「NANGOC」とはNAGoya NGO Centerの略です。



SDGs(持続可能な開発目標)
のりちか
蟹江憲史著

内藤裕子の
オススメ

2016年に伊勢志摩サミットに先立ち開催された「市民の伊勢志摩サミット」での分科会テーマとして取り上げられた頃には、読み方さえも普及していなかったSDGsだが、現在では多方面から溢れるほどの解説書が出版されている。その中であって、この新書はSDGsの策定段階から関わった著者により、的確でコンパクトにまとめられたわかりやすい一冊だといえる。

第1章で述べられているように、SDGsは「あらゆる国が、その政治的イデオロギーや、地理的な位置、軍事的・経済的パワーの違いを超越して、将来の世界の姿はこうあるべき」と賛同している点がなによりも重要なことだろう。地球環境の悪化や格差の拡大を放置すれば私たちがすべてが滅びてしまうという危機感に立っている。著者がコロナ感染症による打撃が世界を覆うのを憂慮しつつこの本を仕上げた点を指摘しておきたい。



中公新書 2020年
1,012円



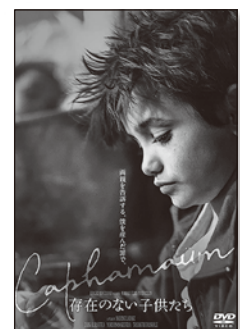
存在のない子供たち

貝谷京子の
オススメ

幼い少年が裁判所の証言台に立つ。彼は自分の両親を告訴する。僕を産んだ罪で。ど初っ端から、衝撃的な裁判シーンでこの親子にいったい何が起こったのかと思わせる。映画は過去に遡り、その謎を少しずつ紐解いていく。少年は、両親ときょうだいとともに中東の貧民窟で暮らしていた。学校に行く年齢にもかかわらず学校に行くことができない。両親が出生届を出さなかったからだ。

生活するために妹が無理やり結婚させられるのを目の当たりにした少年は家を出る。外の世界はさらに不条理に満ちあふれていた。

一億総中流時代は遠い昔、日本でも無戸籍の問題が取り上げられ、格差問題はさらに深刻になっている。この物語はもはや遠い国の出来事ではなくなるのかもしれない。



DVD 2020年
4,290円

Nたまのいま

No.43



さわい みなえ
Nたま13期生 澤井美奈江さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2019年度までの17回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は250名。このうち、のべ143名のOB・OGがNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第43回はNたま13期生、澤井美奈江さんにお話を伺いました。

自分が良いと思うことに向かって進む大切さ

■澤井さんの経歴は？

社会に出てから10年+a、6つの職場を経験し、現在7つめです。最初は自動車業界に就職し、その後フロリダのディズニーワールド、名古屋のJICAで働きました。JICAでNGOを身近に感じる中で、自分も実際に現地を見てみたいと思い、シャンティ国際ボランティア会に転職し、カンボジアで活動しました。その後、米国ミシガン州で日本文化を広める職につき、現在は愛知県で学校関係の仕事をしています。

Nたまは、JICA時代興味のあったNGOのことを学びたいと思い受講しました。

■一番印象に残っている活動は？

カンボジアでの支援活動です。カンボジアはポルポト政権時代の影響が今も残り、教育面などで未だ支援が必要な状況です。老朽化した学校を新しく建て替えること、幼児教育支援、コミュニティ図書館支援が主な活動でした。コミュニケーションは英語でしたが、非母国語でのコミュニケーションは意思の疎通が難しく、価値観の違いからトラブルになることも多々あり、フレキシブルな対応や現地の年長スタッフへの配慮等に苦労しました。

■価値観の違う人とのコミュニケーションの秘訣は？

心がけていたことがあります。それは相手の目線にたつこと。自分にとって当たり前でも、相手の文化ではそうではないこともあるので、常に相手の立場に立って物事を考える必要があります。

具体的には、同じ英単語で話をしても感覚が違い、あれ?となることが何度もありました。例えば「掃除をすること」。部屋の掃除をお願いしても私が思うきれいな状態にはなりません。日本人が見慣れているきれいさとカンボジア人の知るきれいの感覚が違うため当然です。整理してほしいものを具体的に伝え、相手にわかってもらえないと思ったら潔くあきらめ、お互いの考えをすり合わせて現実的な折衷案を探りました。ミスコミュニケーションを減らすために歩み寄ることが、信頼関係を築き物事をスムーズに進める秘訣です。

■今後はどのような活動をしていきたいか？

社会問題を自分事にとらえ、新たな発想で社会に関わっていく、チェンジメーカー（変革を創る人）の育成に尽力します。ひとつの会社で長く勤めるという働き方以外にも、私のように色々な仕事を体験する選択肢もあること、様々な経験をすることで、その分視野が広がり、自分を満たし周りにHappyな輪を広げられるということを伝えていきたいです。多様な生き方が受け入れられる社会になり、自分が良いと思うことに向かって進む人が増えるよう、まずは自ら実践、変革になります。

（担当：久田）



事務所全員でのワークショップお疲れ様会
（中央が澤井さん）

センターの動き

人材活動育成

オンラインNたま同窓会を開催しました!

2020年度の開催を見合わせた「NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ(Nたま)」。2021年度は今までの様式からオンラインなどに受講方法を変更することがせまられており、転換期であると考えています。そのような状況の中、プログラムに関する新たな意見をNたま修了生から提案してもらい、また同時にNたま修了生の結束を強めるという目的で、2021年1月23日(土)に「Nたま同窓会&新年会」をオンラインで開催しました。

直前での告知にも関わらず42名の皆さんに参加していただきました。参加者の中には、Nたま修了生以外にも職員や理事、Nたま事業に関わったインターン生なども参加し、懐かしい顔ぶれと再会することができました。

同窓会では、Nたま事業の状況報告を行い、その後小部屋に別れ、Nたま修了後の状況を参加者同士が話したり、Nたま時代の

思い出を話し合ったりしました。1時間半という短い時間ではありましたが、積もる話も多く「また開催して欲しい」「疎遠になっていた仲間と繋がることができて、連絡先も交換した」などのコメントもあり盛会のうちに終わりました。



オンラインで交流するNたま修了生

(報告:松浦)

臨時職員の紹介

田口裕晃さんの休職に伴い、2021年4月から2022年6月まで、加古さんと門田さんの2人に臨時職員として関わっていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひ致します。

かこまりえ
加古 麻理江さん



この度、約1年間ですがスタッフとして関わらせていただくこととなりました、加古(もろろうと呼ばれたりしています)と申します。

名古屋NGOセンターとの出会いは、スタディツアー説明会への参加やCOP10が行われた年に初めてボランティアで参加させていただいたことです。その後、会員管理のボランティアとしても月1回程度ですが関わらせていただいております。

センターがあったことで、色々な学び、発見やつながりを持つことができ、とても大切な場所でスタッフとして関わらせていただくことは、今からドキドキ少し緊張しながらも楽しみです!

もんでん ひとみ
門田 一美さん



皆様、大変ご無沙汰しております。2017年の春から2年間休職した後、都合により退職いたしました。この度、田口さん休職の代理として再び事務局に戻って参りました。

この4年間は、東京⇄愛知・岐阜の間の引っ越しや、子ども(現在2歳)の育児など生活環境の変化が激しく、専ら日々の生活を維持することにエネルギーを費やしてしまいました。

そして、昨年からのコロナ禍…、センターでも事務局のテレワーク化、各種会議、Nたまもオンラインを活用しつつの開催予定となり、様々な対応をしている中で、果たして、私はどの程度対応できるのか…。甚だ不安ですが、早々にリハビリをしたいと思いますので、何卒ご容赦お願ひします。

活動報告カレンダー 2020年9月1日～2021年2月28日

●ネットワーク

- ・シーテック クリック募金2020(～1月)2万クリック達成
- ・「ステファニ・レナト賞」本賞・奨励賞・特別賞決定(10/6)

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員): [9～2月430件]

情報発信		9月～2月
ホームページ	更新回数	21
	ビジット数	158,591
facebook(フォロワー数1,290人)	更新回数	45
メルマガ(登録数259人)	配信回数	18

●情報収集・発信

- ・会報『さんぐりあ』11月号発行(1,000部)・発行(10/23)

●政策提言

- ・無料オンライン学習会「コロナ禍に脅かされるアジアの市民社会と私たち」開催(10/3)
- ・日本学術会議任命拒否問題に関する声明を、NANCiSが発表(10/13)
- ・市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCiS)2周年記念シンポジウム参加(11/30)

●国際理解・開発教育

- ・浜松北高校国際科 ファシリテーター派遣(10/15)

●人材・活動育成

- ・「国際協力カレッジ2020」開催(12/19@オンライン)
- ・東海地域NGO活動助成金 選考会開催・助成団体決定(2/27)
- ・「オンライントークイベント Nたま修了生の今」開催(1/29,2/9,2/21)

●運営

- ・理事会(9/19,11/18,2/17)
- ・職員会議(9/1,9,15,29,10/6,13,28,11/11,17,24,12/1,8,15,22,29,1/8,19,26,2/9,16)

会員・寄付者、協力者の紹介 (順不同・敬称略)

2020年9月1日～2021年2月28日

●賛助会員(個人)

【更新(賛助会員A)】:

稲葉健吾、廣井修平、笠原聡太郎、外村(白井)悠、佐藤遼、松浦史典、海野香織、福田美津枝、丹羽輝明、塚田涼子、長町諭、佐藤玲子、吉岡嗣晃、谷川毅、岡田雅宏、清水淳、斉藤尚文、加古麻理江、名嶋聡郎、中田健太郎、貝谷京子、梅村紀彦、守屋保美、堀川絵美、梅木早苗、遠山涼子、瀬川義人、鈴木英司、加茂省三、門田一美、今井田正一

【更新(賛助会員B)】

森元裕恵、山口紗永子、筒井広治、
島中順也、中尾さゆり、谷口千賀子、
佐原恵津子、細井和世

【新規会員】川合千代子

みなさまの
ご理解・
ご協力に
心より感謝
申し上げます



●寄付者(物品なども含みます)

【一般寄付など】伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、加藤勝子、大野博人、後藤文昭、酒井俊輝、水野愛、目加田貴弘、山田志帆、中島正人、八木巖、中村良三、福田美津枝、滝栄一、(特活)アユス 仏教国際協力ネットワーク、山本英仁、今井田正一

【募金キャンペーン】小久保紀子、貝谷京子、中島隆宏、玉村末妃、横山紀子、杉本正次、夏目亜依、熊澤友紀子、宝泉寺、加藤勝子、大川元嗣、中島隆宏、廣井修平、春田みな美、藤井朋子、伊佐次歩

【Nたまサポーター】塩田匠弥、八木巖、岡谷鋼機(株)、連合愛知、佐藤光、中部ウォーカーソン、塚田涼子、安藤澄江、春田みな美

●アフィリエイト アマゾン・ヤフー1,225円/楽天953ポイント

●会報発送(122号/2020年11月号) がんちゃん、もんろう

事務局のひとこと

個人的なことではありますが、センターに関わって15年が経ちました。5月末から1年間お休みをいただくこととなります。ちょっと寂しくもあり、不安でもあります。みなさんにはご迷惑をおかけしますが、1年後に帰ってきますので、その時はよろしくお願いします。(田口)

編集後記

自宅にいながらオンラインで編集会議や取材が成り立つ時代。慣れてはきたが…。考えてみたらその昔、メールのやり取りで世界とつながるのが画期的でした。取材したZ世代たち、デジタルに明るいだけでなく、情熱もあって、礼儀正しくて、一緒に活動するのがこの先も楽しみです。(桜井)

コロナ自粛にも疲れて、感染者数の山が大きくなるに連れて数字に慣れてしまっている。対面イベントの自粛は、様々に工夫したとしても多くのNGOにとっても本当に大きなダメージだ。ネットでのつながりだけは急拡大しているが、コロナ後の世界に希望はあるのだろうか。(内藤)

<大切なお知らせ>

日頃より、フェアビーンズをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。勝手ながら、当店は2021年3月28日(日)をもちまして閉店いたしました。約11年間、当店をご愛顧いただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

なごや地球ひろば店は閉店いたしました。オンラインショップは継続して営業しております。オンラインショップでは、フェアビーンズコーヒーや、ホットチョコレート、フェアトレードチョコレートや、その時々に合わせてフェアトレード&オーガニック食品を取り扱っています。また、全国各地のオーガニック事業者さんでもフェアビーンズ商品をお買い求めいただけます。

引き続き、FAIRBEANS/(有)フェアトレーディングをご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。



オンラインショップ
<http://fairbeanscoffee.net>
有限会社フェアトレーディング
<http://fairbeans.org>

Story of the Pacific Islands

—— 太平洋の島をめぐる旅 ——

企画展
パネル展
開催中

2021 3/11 Thu - 7/11 Sun

場所: JICA 中部 なごや地球ひろば 時間: 10:00 - 17:00

太平洋に浮かぶたくさんの島々。真っ青な空と透き通った海、豊かな自然に恵まれたまさに楽園。しかしその裏では、自然災害や気候変動への対応など困難と直面しています。JICAは日本の知見を活かしながら、日本と同じ海に生きるパートナーの発展に協力をしています。三重県志摩市にて第9回太平洋・島サミットが開催予定の今年、太平洋の島々の現状と魅力を発信いたします!

JICA なごや地球ひろば

名古屋駅から徒歩13分/名駅 ささしま



総会案内

2021年度の定時総会を開催します。オブザーバー参加を希望される方は事務局までお問合せ下さい。
日時:2021年5月22日(土)10時~12時 開催方法:オンライン

発行:特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
会報編集委員:市川隆之、貝谷京子、桜井裕子、高橋里加子、
内藤裕子、久田夏未、村山佳江

協力者:廣井修平

レイアウト:久由紀枝

発行日:2021年4月23日

印刷:山本印刷株式会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109 URL:<http://www.nangoc.org>
E-Mail(代表):info@nangoc.org

会費:寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <http://nangoc.org/membership/shien.php>

②郵便振替(口座番号)00860-5-90855(口座名)特定非営利活動法人名古屋NGOセンター